

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2026年 7月号 No.418

森のおくいものワ

ヤマユリ（ユリ科）



梅雨明けとともに、本格的な夏が到来する季節。ヤマユリの花が咲き初めます。野生種でありながら非常に大きく優雅な花は欧米でも高く評価され、その球根は明治～大正にかけて日本の重要な輸出品でした。ユリの花は夕方より強く香り、チョウだけでなく、夜行性のガ類もひきつけているようです。文月の森で、素敵な出会いがありますように。 【館長：濱中郁子】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『閑古鳥が鳴く（かんこどりがなく）』

東北南部も6月20日に梅雨入りし、雨の季節が到来しました。雨が降ると散歩する方も少なく、自然だけを感じられていいものです。雨の日に、ひっそり静まり返った森でホトトギスの声が鳴り響いていました。

ホトトギスとは、カッコウとツツドリとジュウイチと同じく日本に夏鳥として渡ってくるカッコウ科の野鳥です。大きさや横縞の模様や目などに違いがあるものの、どれもよく似ていて見分けるのは難しいですが、鳴き声は特徴的なので姿を見なくてもそれぞれの存在は確認できます。

ホトトギスには時鳥、杜鵑、子規、不如帰、郭公、沓手鳥、霍公鳥など、多くの別名・漢字表記があります。郭公はカッコウとホトトギスの両方に使われ、どちらのことかわからないと思ったら、実は混同されていることや意図的に変えられていることが指摘されているようです。和歌や俳句では、語呂の良さでホトトギスと詠むことや、鳴き声はウグイスを指している可能性もあります。鳴かないホトトギスをどうするかで戦国時代の武将の性格を言い表した句が有名ですが、実はウグイスのことだという説もありました。

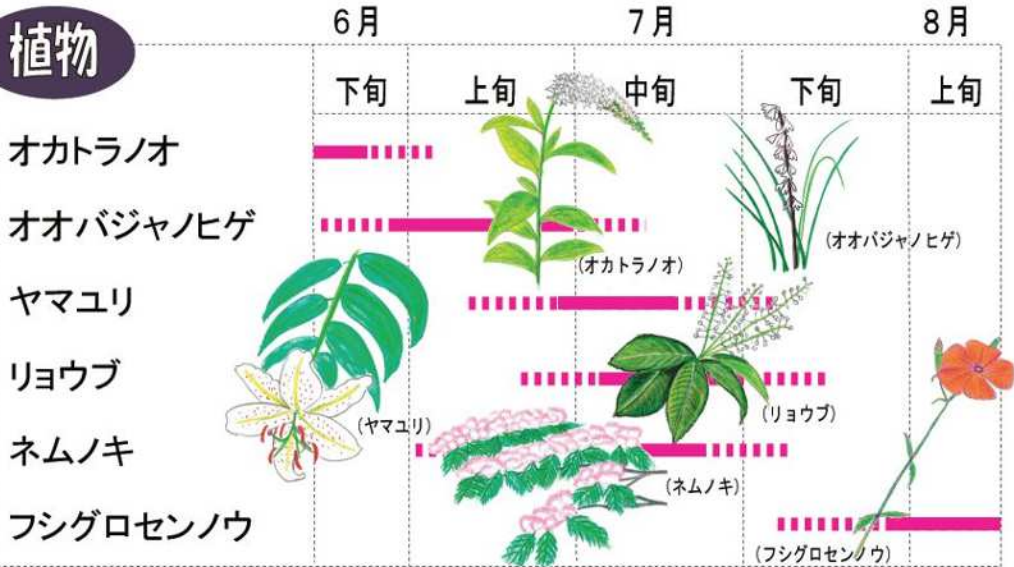
客が来なくて商売が流行っていない様子を表す言葉に「閑古鳥が鳴く」があります。閑古鳥とはカッコウのことですが、鳴き声としてはホトトギスに合うと思います。真相はどちらなのでしょう。意味は「ひっそりとした寂しい山里の情景のこと。人が訪れることなくひっそりと静まり返っている様子のこと」なのですが、いつの間にか暇な店の状態をいうようになりました。本来の意味は、寂しいとは詫び寂びの寂びだとすれば「物音がせずひっそりとして奥深い様子」で静けさに趣を感じさせられる情景に合う言葉だと感じます。

カッコウの仲間には、別の種類の鳥に子育てをさせる托卵の習性があります。万葉集にも托卵をモチーフにした和歌が詠まれているので昔から知られていたようですが、私も映像で見て知っているだけで実際には見たことがないのに、昔の人が知っていたのには驚きです。ホトトギスはウグイスに托卵するので、ウグイスに育てられたホトトギスはウグイスの子となり、ホトトギスをウグイスといっても間違いではないですね。時代とともに言葉は変化していきますが、自然の営みは変わらないし変えてはいけなと思いました。 【レンジャー：新田隆一】



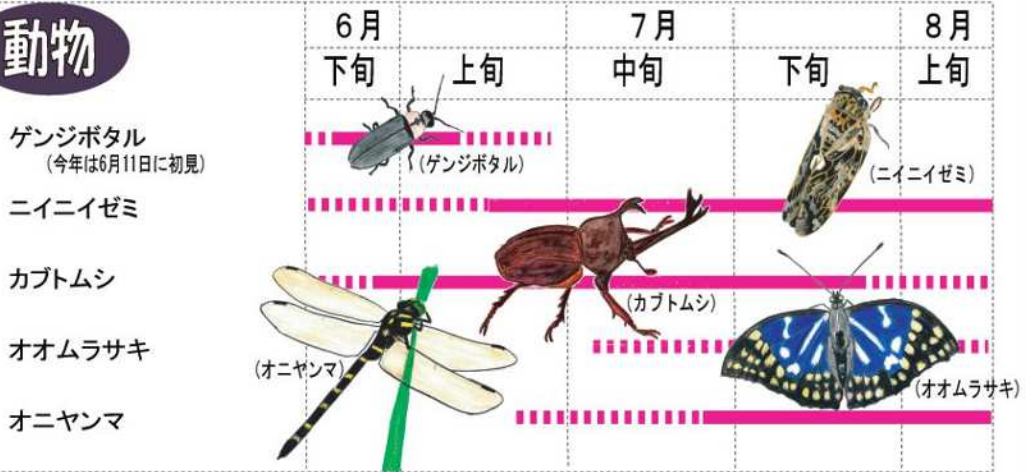
7月の生物ごよみ

植物



雨で中止となった「夜の森の観察会」、下見では多くのホタルや樹液に集まるクワガタが見られただけに、開催できず本当に残念でした。さて、例年なら6月末に鳴き声が聞かれるニイニゼミですが、今年はまだその声が聞こえず、本格的な夏が待ち遠しい今日この頃です。一方センターでは8月上旬の展示に向けて飼育中のスズムシが6月10日に孵化し、たくさんの赤ちゃんが元気に誕生しました。さらに7月中旬からは『樹液に集まる昆虫たち』と題したカブトムシの生体展示が始まります。是非夏の主役たちに会いに遊びに来てください。【レンジャー：齋 正宏】

動物



森の「あれこれ」



「森の子育てひとり立ち」



野鳥たちは子育てや巣立ちの季節を迎えました。左の一枚目の写真はセンター周辺にいるハクセキレイの親子です。街中でもよく見られる野鳥ですが先頭の背中の黒いのが親。後ろから灰色の子どもがついていきます。先日は二羽だった子どもが今日は一羽しか見あたりません。巣立ちの時は一番危険な時期でもあります。



左の二枚目、前回も見かけたエナガです。若鳥となり翼も尾羽も長く伸び親鳥と姿形は一緒です。ただ動きがたどたどしく飛び方も慣れていないようでした。親がそばで心配しているかとも思い写真を撮りすぐその場を離れました。



三枚目、雨の降りしきる中たたずむオオルリの若鳥。ヒタキの仲間は見分けが難しいのですがこの子は尾羽と翼の一部がルリ色で雄の若い個体であることがわかります。もうひとり立ちしているのでしょう。



子どもの面倒を見るのは哺乳類と鳥類だけ、親が保護し危ない時期を乗り越え無事に命をつないで…と考えていたら、卵を大事にする私の親指ほどのエサキモンキツノカメムシのお母さんがいました。(最後の写真)。卵がふ化し幼虫になってもしばらく子どもを保護します。その姿にしばし見入ってしまいました。

【レンジャー：木田秀幸】

いきものの森

①「シマヘビ」です、樹の上で見かけるのは珍しいですが、顔をよく見ると意外と可愛いです。②「アオカミキリ」です、金属光沢の緑色が美しいですね。③ これまた美しい小型の「タマムシ」の仲間です、緑やオレンジの色彩変化が大きいそうです。④ 枝などに擬態することで知られている「ナナフシ」の仲間です、まだ幼体のようですが、葉の葉脈に擬態しようとしているのでしょうか。⑤「ウマノオバチ」という寄生蜂です、非常に長い産卵管をもっています、写真にも収まりきれませんでした。



7月の森は濃い緑色に覆われます、小動物や昆虫などの活動が最も活発になる時期になりますが、気温も高くなり、紫外線も強く、蚊なども多くなるので、森へ来る際は少し準備をして来られた方が良いでしょう。【レンジャー：菅井 潤】

【レンジャー：菅井 潤】

イベント & お知らせ



◆①「夜の昆虫観察 ライトトラップ観察会」

- ・ 7月18日(土) 19:00 ~ 20:30 (7月11日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆②「わくわく夜の森ナイトウォーキング」

- ・ 7月25日(日) 19:30 ~ 21:00 (7月18日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆③「自然感さつ専科「きのこウォッチング」」

- ・ 7月26日(日) 10:00 ~ 12:00 (7月13日必着)
- 【対象】小学3年生以上 10人 (中学生以下は保護者と参加)

◆④「虫のいどころ」

- ・ 8月22日(土) 10:00 ~ 11:30 (8月10日必着)
- 【対象】どなたでも 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆⑤「夜の昆虫観察 ライトトラップ観察会」

- ・ 8月22日(土) 18:30 ~ 20:00 (8月15日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

- 【申込み】Eメールにて 各締切日必着(抽選) 詳細はQRコードで



※ 申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp

自然観察の森の最新情報やイベントへのお申込み、
「森のおくりもの」バックナンバーはQRコードから



7月の休館日

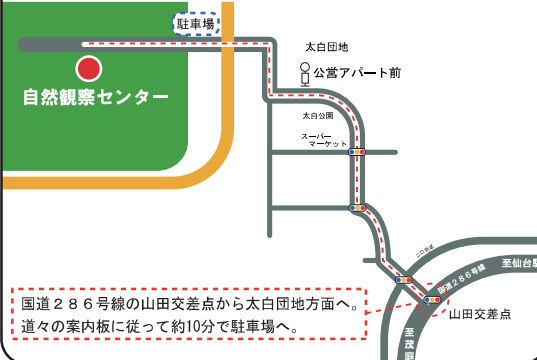
毎週月曜日(6日、13日、21日、27日)

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館

駐車場から徒歩約5分で到着



自家用車の場合



国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- ※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

2026年 7月号

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133